



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社パピレス

上場取引所 東

コード番号 3641 URL <http://www.papy.co.jp/info/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松井康子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務・経理部長 (氏名) 須永喜和

TEL 03-6272-9533

四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	8,197	22.1	592	25.1	614	14.8	400	17.7
29年3月期第2四半期	6,715	30.4	791	49.3	722	39.0	486	46.0

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 395百万円 (16.8%) 29年3月期第2四半期 474百万円 (45.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	40.68	40.27
29年3月期第2四半期	49.58	49.26

(注) 当社は、平成29年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しています。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	8,668	5,010	57.1
29年3月期	8,227	4,617	55.3

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 4,951百万円 29年3月期 4,547百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		10.00	10.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成29年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。平成29年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しています。

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,525	23.9	1,812	9.3	1,833	11.8	1,270	12.0	129.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 1 社 (社名) Papyless Global, Inc. 、 除外 社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 以外の会計方針の変更 : 無  
 会計上の見積りの変更 : 無  
 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	10,326,880 株	29年3月期	10,326,880 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	469,021 株	29年3月期	516,880 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	9,838,378 株	29年3月期2Q	9,810,000 株

(注1) 当社は、平成29年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しています。

(注2) 「期末自己株式数」には、「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式(30年3月期2Q 40,000株、29年3月期 80,000株)を含めています。

(注3) 「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めています。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

また、当社グループの事業は電子書籍事業のみであり、重要な事業拠点も当社のみとなっているため報告セグメントはありません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調が続いています。個人消費は、緩やかに持ち直しており、企業収益は改善しています。

電子書籍の市場環境は、電子書籍ユーザーの拡大等により、堅調に市場規模が拡大していますが、市場参入企業も多く、厳しい競争が続いています。この結果、コンテンツ需要の増加による、出版社等のコンテンツホルダーからの仕入コスト上昇や、集客を強化するための、広告宣伝や販促コスト増加のリスクが高まっています。

このような環境の中で、当社グループは、顧客第一主義のもと、サービスの向上と他社との差別化を図るとともに、広告宣伝と販促を強化しています。特に当第2四半期では、電子書籍の一般層への拡大が見込まれるため、TVCMや動画等のマス広告による集客施策に注力しました。また、スマートフォン向けに最適化した、タテ読みフルカラーコミック「タテコミ」の制作数を増加させ、新規顧客の獲得施策を実施しました。さらに海外向けコンテンツの翻訳数も増やすなど、先行投資を強化しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は8,197百万円（前年同四半期比22.1%増）、営業利益は592百万円（前年同四半期比25.1%減）、経常利益は614百万円（前年同四半期比14.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は400百万円（前年同四半期比17.7%減）となりました。

以下、当第2四半期連結累計期間の主な活動状況を報告します。

#### (集客施策)

従来のインターネット広告に加えて、TVCM、動画等のマス広告による集客を強化し、認知度向上を図りました。TVCMは、第3作目として「Renta! 読まずにいられない弟編」をリリースしました。また、当社独自のキャンペーン施策を継続的に実施しました。前期からTOKYO MXで提供しているTV番組「コミックBAR Renta!」では、特別番組の放送を行いました。

#### (サイト改良施策)

「Renta!」、「犬耳書店」の新たなログイン方法として、SNSのID認証によるログイン機能の追加を行いました。

#### (コンテンツ施策)

「Renta!」を中心に、スマートフォン向けのタテ読みフルカラーコミック「タテコミ」の拡充を進めました。「めざせタテコミ2,000万冊キャンペーン」を実施し、「タテコミ」の普及促進を強化しました。また、読みたいトコだけ買える、実用書専門の電子書籍サイト「犬耳書店」では、ビジネス書を拡充し、スマートフォン向けに音声読み上げ機能の搭載を行いました。

#### (海外展開施策)

翻訳体制を強化し、「英語版Renta!」、「中国繁体字版Renta!」の掲載コンテンツの拡充を進めました。また、平成29年5月に、米国をはじめとする英語圏での電子書籍販売事業の拡大を図るために、米国（サンフランシスコ）に、子会社1社（Papyless Global, Inc.）を設立しました。

#### (次世代コンテンツ開発施策)

小説の文章を短く区切り、画像を追加した「絵ノベル」（特許取得済）及びコミックを動的演出で見せる「コミックシアター」の制作体制を整備し、増産体制の構築を進めました。また、電子書籍投稿・編集プラットフォーム「upppi」は、女性向けサイトに、全面リニューアルを行いました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、8,668百万円(前連結会計年度末比5.4%増)となりました。

流動資産は、8,283百万円(前連結会計年度末比5.7%増)となりました。主な内訳は、現金及び預金が6,021百万円、売掛金が1,761百万円です。

固定資産は、384百万円(前連結会計年度末比1.2%減)となりました。主な内訳は、投資その他の資産が323百万円です。なお、当第2四半期連結累計期間において、重要な設備の新設および除却はありません。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、3,657百万円(前連結会計年度末比1.3%増)となりました。

流動負債は、3,655百万円(前連結会計年度末比1.3%増)となりました。主な内訳は、買掛金が1,913百万円、未払金が805百万円です。

固定負債は、1百万円(前連結会計年度末比35.4%減)となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、5,010百万円(前連結会計年度末比8.5%増)となりました。主な内訳は、資本金が414百万円、資本剰余金が244百万円、利益剰余金が4,514百万円です。

当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は57.1%(前連結会計年度末55.3%)となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ190百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末の残高は5,107百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は244百万円(前年同四半期比52.2%減)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益614百万円、売上債権の増加額67百万円、仕入債務の増加額191百万円、法人税等の支払額359百万円等によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は22百万円(前年同四半期は14百万円の獲得)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出222百万円、定期預金の払戻による収入200百万円等によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は46百万円(前年同四半期は37百万円の使用)となりました。これは主に、配当金の支払額49百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、平成29年5月12日の「平成29年3月期 決算短信」で公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,798	6,021
売掛金	1,693	1,761
コンテンツ資産	0	1
その他	347	503
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	7,837	8,283
固定資産		
有形固定資産	64	61
無形固定資産		
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産	324	323
固定資産合計	389	384
資産合計	8,227	8,668
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,721	1,913
未払金	823	805
未払法人税等	384	259
賞与引当金	41	46
株式報酬引当金	43	21
その他	592	609
流動負債合計	3,607	3,655
固定負債		
その他	2	1
固定負債合計	2	1
負債合計	3,609	3,657
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	414	414
資本剰余金	241	244
利益剰余金	4,163	4,514
自己株式	△274	△227
株主資本合計	4,544	4,945
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	0
為替換算調整勘定	3	5
その他の包括利益累計額合計	2	5
新株予約権	33	30
非支配株主持分	37	29
純資産合計	4,617	5,010
負債純資産合計	8,227	8,668

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	6,715	8,197
売上原価	2,840	3,540
売上総利益	3,874	4,656
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	2,071	2,736
代金回収手数料	466	615
貸倒引当金繰入額	3	4
賞与引当金繰入額	21	24
株式報酬引当金繰入額	21	21
その他	498	661
販売費及び一般管理費合計	3,083	4,064
営業利益	791	592
営業外収益		
受取利息	0	1
退会者未使用課金収益	4	4
為替差益	—	18
その他	0	0
営業外収益合計	5	24
営業外費用		
事務所移転費用	30	—
投資事業組合運用損	—	2
為替差損	43	—
その他	0	0
営業外費用合計	74	2
経常利益	722	614
税金等調整前四半期純利益	722	614
法人税、住民税及び事業税	253	244
法人税等調整額	△6	△22
法人税等合計	247	222
四半期純利益	474	392
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11	△7
親会社株主に帰属する四半期純利益	486	400

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	474	392
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	0
為替換算調整勘定	△0	2
その他の包括利益合計	△0	2
四半期包括利益	474	395
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	486	402
非支配株主に係る四半期包括利益	△11	△7

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	722	614
減価償却費	8	4
株式報酬費用	4	—
投資事業組合運用損益(△は益)	—	2
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	1	4
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	21	21
受取利息及び受取配当金	△0	△1
事務所移転費用	30	—
為替差損益(△は益)	40	△22
売上債権の増減額(△は増加)	△383	△67
たな卸資産の増減額(△は増加)	0	△0
仕入債務の増減額(△は減少)	472	191
未払金の増減額(△は減少)	△20	△17
その他	△65	△127
小計	831	602
利息及び配当金の受取額	0	1
事務所移転費用の支払額	△13	—
法人税等の支払額	△307	△359
営業活動によるキャッシュ・フロー	511	244
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△500	△222
定期預金の払戻による収入	700	200
有形固定資産の取得による支出	△62	△0
敷金及び保証金の差入による支出	△122	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	14	△22
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	—	△0
自己株式の処分による収入	—	4
配当金の支払額	△36	△49
リース債務の返済による支出	—	△0
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37	△46
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	14
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	461	190
現金及び現金同等物の期首残高	3,537	4,916
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,999	5,107

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結累計期間において、米国に、Papyless Global, Inc. を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。なお、Papyless Global, Inc. は、当社の特定子会社に該当しています。